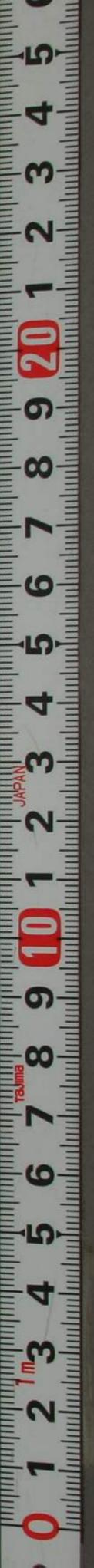




里見八犬傳 拾一編 卷十八



13  
709  
66



門遠 13  
 號 709  
 卷 66



明治十六年  
 十月九日  
 購

南總里見八犬傳第九輯卷之十八

東都 曲亭主人編次

第百二十四

師命を守りて星額遺骨を齎せ  
 殘捨を受て癩僧禍鬼を告ぐ

文明十五年癸卯の四月十六日、大法師の宿願成就して下総國結城郡城西と雪を  
 たる古戦場の草庵にて嘉吉の義死の里見氏、並に春王安王兩公連城主結城氏  
 朝を首として大塚匠作三成井丹三直秀門當日戦歿の忠將義士の諸靈魂の菩提の與  
 獨坐不退の常念佛の結願供養を遂んとせしめ、則是五十年忌の前修して嘉吉元年辛  
 酉より今に至る四十二年念佛修行の其創より八十許日及る本日、即那諸將士の祥  
 月亡日を以て念程の大塚信乃大山道節大川莊介大飯毛野大村大角大飼現八犬田  
 小文五門の七犬士の里見殿の代香使養崎十一郎照文副使燒雪代四郎與傳と共

ともてりて、伴當八個の殿兵を相從へ。その日辰の初刻、大庵へ参入會を折り、那某  
侶の照文の伴當と八個の殿兵を相從へ。その日辰の初刻、大庵へ参入會を折り、那某  
甲の院の住持長老九個の徒弟を相俱して、寺來きて庵中の在り。庵主と副けて  
經卷讀誦の最中、おられ照文と大士の持し來り圓坐を庵道邊の樹下、各  
分ちうち布を坐して讀經の果るとも程、昨宵照文が吩咐、經紀兒們的精米數十  
苞と永樂錢七十八貫文を俱に數輛の車子に積りて連の推をせて、來り照文と  
是を見て伴當們の受會をして、經紀兒をかへ去り、施の八人別米一斛と錢百文と  
相定めて伴當們より示し、おの易為の準備ある白麻の幕七八張を、大庵の檐下  
より直直に供養塔の頭まで左右の樹木と片合、透間もく張且、且兩道の席  
幾枚、欵長く中央の布しを、準備送き、敷き、八個の殿兵を身甲小各々  
肱着、臍甲も、押棒を衝立、分れて非常と教書ゆる。勿論侍品の不服、照  
文の長袴、大士の肩衣、半袴も、俱に細の夾衣、晴ち小腰刀と帶、さける。然り、姥雪

代四郎も麻社袴を被され、施の折の頭入る、錢と領り米と料を配といそま  
は、直塚紀二六宰領、釣莫あ、免相與る伴當都て立、押棒にて準備、暇あり、  
徳而已、牌左側、草朝廻向の讀經果、大法師の衆僧と俱に、徐草庵と立、  
石塔波を距ると六七尺、儲の胡床、お着、身、白袴の夾衣、小香、漆の法衣、黒  
綸子の袈裟、披、お拂子、合、その容、素朴、似、松體、竹心、仙骨、見、  
最も尊く、足、さ、相從、法師們的十口、都て一樣、長老沙弥の差別、皆、細  
衣被て、白紗綾の袈裟、左右、兩側、排立、て、更、供養、結願の讀經、お、梵唄  
和讚の妙音、聴者、齊、一心、耳、と、澄、木魚、鉦、磬の响、呂律、小、叶、天樂、花を、雨、  
るの祥瑞、お、宝器、云、お、足、の、其、式、を、失、衆徒、実、小、匠、けれ、も、深信、猶、餘、  
お、供養の讀經、復、一時、許、既、お、讀、果、大法師の宝座を、立、て、過去、七、佛、を  
唱、名、膜拜、を、遂、不、諷誦の願文を、聲、爽、小、諸、讀、を、の、文、お、  
八代傳九郎、  
二  
文、

八代傳九郎

文

婦幼の與ふ假名をすて、作者の本、これを見れば、夫四恩必報、一狼獾の、不仁、を、時、と、て、天を祀り、雛鴨の、悪食、も、猶、反哺、の、孝、を、人、と、徳、を、思、ふ、因、報、の、心、を、禽、獸、の、易、を、及、ん、伏、と、惟、れ、嘉、吉、の、擾、乱、君、臣、相、克、五、常、地、を、掃、て、人、心、を、異、る、を、是、時、不、當、て、獨、結、城、氏、の、艱、忠、を、是、を、り、左、祖、義、を、仗、る、所、の、雄、兵、遂、亦、其、を、見、の、諸、將、恩、顧、の、勇、士、故、君、兩、公、子、の、奉、為、小、妻、子、と、性、命、を、擲、ち、甲、兵、孤、城、を、據、る、處、十、萬、有、餘、人、四、門、の、防、禦、矢、石、富、之、畧、六、韜、計、拙、か、を、籠、城、既、三、今、年、の、久、保、堪、て、百、萬、虎、狼、の、勁、敵、も、其、の、勢、不、棄、る、能、は、雖、然、古、語、不、云、乎、人、其、け、天、不、勝、天、定、り、人、不、勝、の、時、を、至、ら、ね、ば、折、れ、勢、窮、る、不、泊、て、君、辱、ら、れ、臣、死、せ、玉、石、共、不、斷、燒、れ、誰、一、人、も、残、る、不、義、不、肖、中、七、當、時、父、と、俱、不、其、城、在、り、城、陷、る、日、遺、訓、辭、を、路、を、鏡、を、破、の、命、と、東、南、の、海、隅、免、れ、て、神、餘、を、與、不、通、臣、を、誅、戮、且、不、義、の、兩、郡、司、麻、呂

安西を討夷して、安房の、四郡、を、有、り、以、來、民、と、附、る、仁、を、以、士、と、招、ふ、賢、を、擇、加、之、愚、息、義、成、孝、不、あ、て、且、武、畧、あり、是、を、以、下、風、不、立、武、士、十、餘、城、遂、不、隣、國、二、總、と、并、一、方、の、藩、屏、是、併、先、考、威、靈、の、守、る、所、所、祖、先、の、餘、徳、不、依、る、者、也、義、実、幸、不、良、臣、勇、士、の、羽、翼、を、爲、と、あり、創、より、遙、不、考、妣、而、其、の、魂、を、招、は、り、て、廟、墓、を、平、群、の、大、山、寺、不、建、立、春、秋、の、祭、祀、忌、辰、の、追、薦、敢、怠、慢、あ、ら、む、と、雖、今、也、戰、世、割、据、の、列、國、隘、處、々、不、横、り、て、車、馬、を、遠、送、不、致、す、不、由、る、是、故、不、躬、自、其、地、不、追、り、恩、不、答、徳、と、謝、を、死、吊、祭、の、情、盡、ま、不、能、舊、臣、二、世、の、忠、良、金、碗、入、道、大、の、恩、を、棄、れ、不、入、り、寧、不、報、思、欲、一、勇、猛、精、進、五、戒、を、具、足、且、塵、世、不、染、着、錫、を、飛、嶮、岨、と、踰、越、料、數、行、脚、十、餘、年、近、曾、義、実、父、子、不、代、り、草、廬、を、嘉、吉、の、古、戰、場、幽、陰、茂、林、中、不、退、三、月、不、退、大、念、佛、を、勤、行、送、不、重、日、の、吉、室、を、仰、将、不、真、福、不、舊、不、中、不、退、三、月、不、退、大、念、佛、を、勤、行、送、不、重、日、の、吉</

其の 藤んとも我実灰の之を聞く相懽て寝れぬ因茲涅槃經三部孟蘭盆經五部  
部隨求陀羅尼之卷を捐寫し奉り使臣蛭崎照文等不齊して以供獻焼  
香の眞礼を仍り呼佛弟子の功德廣大を量速津慈航の資を爲す胸月  
眞如虚いなる其善念の投ま所上六有頂天の届るべく下金輪際融通し  
弥陀勢至觀音の三尊俱に降臨し五五の諸菩薩天部善神肩を比て影向  
あり異香馥郁とて金蓮葩と降し天外の音樂節奏の如く鳳蕭龍笛  
睡蛇を覺さず慶雲忽岫より起り醜醜とるるをば然るべし則數萬の  
精靈必是之惡の火坑を長く脱離して不來量壽の寶座に遷り二十六天の仙  
室に向きて常寂光の樂邦に遊人乃至一間提普く八正道を赴く後と公事  
由を本願の大檀那前治部大輔里見義實朝臣安房守兼上總介里見義  
成朝臣代り奉り浄場修行の沙門、大行香使臣蛭崎照文等敬白と

誦し登時蛭崎照文の七武士們不揖をり徐々身を起して塔波の邊に  
找む程代四郎紀二六あるて安房より西侯の寄るをり經卷と香眞を両  
手に捧け相従ふ照文が身邊に措くと照文をり受合ふ塔前不具る程代  
四郎と紀二六を舊の樹下へ退けり然らば又照文の塔婆に朝の端坐して且石塔波  
仰に看る細工の精妙いふもあむ第一の石壇あり義実主の先考妣の神  
主ありその備水二三外を装る可る壺の網裏に容るありある何もの東西る所を  
知るも次の壇の左右あり花を供へ水盥の水盤あり下壇あり香爐あり塔の四方  
に樹枝あり四箇の楮幡を吊し楯に諸行を常是生滅法生滅々爲寂滅  
爲樂との涅槃經の四句の偈を寫し照文隨即懷より伽羅一裏合ふ如  
く茶を焼く香を額衝に并て黙禱し身を起り退け大塚信乃立替り  
找寄り焼香を信乃が大父大塚三成及外祖井直秀の忠勇義烈拔群

八代傳九郎忠義

文藝叢書

昔年結城落城の折戦役の誓ありありと大士の中。信乃を第一番の焼香ゆき達  
せける信乃の信乃の懐舊の涙と俱に再拜して。中退りける。次は道節莊介毛野  
大角現八小文吾們立替々々次第と追て拜し訖。照文二さび找み出て代四郎  
と共に私焼香も介程小、大法師の本処に退り坐して連り木魚をうち鳴り  
て。十個の衆徒と異口同調に念佛數百遍唱へる。聲清曉と澄真りて現寂滅  
為樂の偈句虚しくかき。思ひぬ者もなきり。信而諸士の焼香果一。大法師を  
衆僧と俱に唱名の聲を歌りて。合掌して念まう。南無帰依佛南無帰依法  
南無帰依僧之宝請誦一奉る。追薦冥福の諸精靈故鎌倉の管領持氏朝  
臣の兩公子。春王君安王君法號某院某大童子。唱。里見治部少輔源季基  
朝臣法號義烈院忠慈賢山大禪定門孺人鳥山氏貞心院慈德如峯大  
禪定尼當城の先主故下總判官結城氏朝朝臣法號某院某大居士春安

兩公子の小傳大塚匠作三成法號訓山栄后遺壁禪定門夫妻其子大  
塚番作一成法號知命達德速逝禪定門孺人藤原氏諱は東法號節  
標如竹似松禪定尼信濃國人氏井丹三藤原直秀法號當覺自證以  
真居士の它嘉吉の義兵忠戦陣役の列將士卒修むる伎の妙典及念佛の  
功德の依り。一蓮托生永劫極樂土子孫後榮施主敏系昌南を阿弥陀佛南  
無阿弥陀佛十念誦く更亦結願の偈を偈て曰  
圓輪如輪歲月流 個中名利等浮漚 漫勞計較分兵楚  
且任稱呼作馬牛 世事看來從理順 人謀怎似所天休  
要知弔滅酬恩訣 念佛勤行成就秋 南無過去未來見  
在三世諸佛菩薩 唱訖れば幫助の長老も亦偈句を誦して曰  
願以此功德 莊嚴佛淨土 上報四重恩 下濟三途苦



のひとを信而今茲の春よりして拙僧の地を并を締めて常念佛を修め  
 ける事情を多しとて秋星額長老を以て御中の徒弟達を相俱して我為  
 石塔婆と一夜の間造り立す。法會の莊嚴を幫助あり。今日も亦早旦より師  
 弟共侶小這里の來まして始て件の東意を示して先君の御送骨と那名刀を拙  
 僧に授賜りしを結願供養の讀經を助聲せられ。洪恩德義何事致  
 又これ勝へば拙僧這地來始より季基公の墳墓のありやせんと思ふて普  
 く里人より尋問ひしを竟に知るより一歩もち歎いてのそありける料も善知識の徳  
 義に依り。御送骨をゆりける鉄び辟言る物もゆるは是併我西館の御孝感の致  
 を所拙僧が所以ある先や件の名刀を拜見せられ我言の錯ると知れぬといひ  
 傳へて祖公の名刀と合せて照文の遺與を奇談の敬篤く照文の俱はち  
 聴く七代士及縁頼の片隅小尻をうち撰て在り。代四郎まで感嘆せざる者も

宝珠和尚の智慧廣大る。未來と知る送囀の趣又星額師の徳誼老實  
 共の難し得く。と一唱三歎異口同様。一霎時稱えて已さるけり。當下登崎  
 照文の祖公の大刀と受合せて而三番うち戴に七代士もせんそ。縁頼の遺不  
 膝を杖め。皆共侶これを看る小刀の長二尺小過に。その表装の心をけん。鋤  
 まく多く縮朽れ。鞆糸失て。鞆破れ。臆々抜放り内を相る小刀の直毛縮  
 らる夏る不寒。稀世の名刀。小鍛治が小鳥干將。鑊邪が太阿。龍泉と。是の優  
 さ下と思ふ可の鏢十六言の記文あり。その文に依り馬之力不料所得祖公之刀  
 源季基と鑢着てありければ。疑ふもあは。皆共侶嘆賞し。照文刀を  
 鞆に收めて。大法師返して。這名刀の東歴の口碑。傳へる受ある。道徳の  
 知りぬるや。七代士達は。不知るべし。星額長老の聞召れ。卑職総角。一時親  
 の輝武の夜話。聴ると。先君季基朝臣上毛の御館不在。比有一日近



八犬傳九章卷十八

文政堂藏

名刀名將  
 暗小  
 狙公と極小



八犬傳九章卷十八

文政堂藏

切ふて

習四五名を射獵の爲に遊山去りし其頭を蕃山の麓に底不知と喚ば池  
ありて老る松三株池畔に斂糸粒たるその樹下は但公と名なり漢子株を斂て  
身單睡俯く在り李基朝臣は蕃山より麓に馬を找んと迫り其方を見且玉  
ふ事件の漢の頭の上最怖るは蛇蛇在り其軀の太ふ千載の松に異なる事件の  
池より出するらん頭は松の杪に在りて尾は水中に隠れり其長は推して知るべし眼を百  
鍊の鏡を雙楸する像く口の血を装うし盆に似ては長き舌の火焔然と疑はる漢の  
飼の猕猴は駭怖れて逃んとまれは鮮に援けて同撥く程は令大蛇を吞れける然も  
大蛇は飽を又但公と吞んとて那松枝より頭を下して口を張り舌を吐れ既く近  
つ程は怪じべし但公の帯さける腰刀忽然と脱して是れ升て事件の大蛇を速り制  
めり所んと大蛇はこれ勢ひ撓きて松の巖系茂く躰れて出で他退げたり亦自然と韃  
返り入りぬ一霎時ありて又大蛇の頭を伸くと吞んとまれは腰刀も亦韃と出で樹を閉

ふと始の如し李基朝臣の一町あり蕃山の脚に馬を駐めり這前未聞の光景と  
らち長觀て在りしが俱に駭怖怪しき伴當をえりて若們他とよめる然刀  
劍の身を衛する素よりその徳ありとて那漢子の腰刀の就中世に稀なる神  
宝をそあえざる然ばとて過さば惻隱の情るに似たりいひ極めてはせんま  
と宣ひまゝ上挿の獵箭二條抜合て箭路を量り馬を找めり弓は前刺さく  
まゝ大蛇は猶も但公を吞んとて又頭を伸きて李基透を彎固める矢聲を  
發て鏢と射る竟錯る事件の大蛇は右の眼を寛深く射れて一霎時も堪む仰そ  
まゝ李基は前刺速る燬煉るは二の箭前大蛇の咽喉を射きて共裏決る窮所の  
深癩を弱く松の杪より撞と墜きて死でける但公はの响らち駭驚て覺えれは蛇  
毒を觸る舌は強りて響立ど小程は李基朝臣の伴當より但公事件のよりを  
告知して升が身邊に馬を找り腰附の葉籠る解毒の丹茶を賜りければ但公は稍



後幸の  
名勝の安  
房の里見の  
重宝の  
より白石  
先生の筆  
記の見え  
たるを借  
用する官  
原据あり

取奇貨買つけり。即便其刀の價とて金百兩を命せり。朝暮七の口示す。不  
飲ひ酒を外にせり。二期の福德の上。と受戴る。重宝の。小可憐。猴と大蛇。吞  
且て生活の便着。中をせり。と慨々思ひ。ひり。然る。東西。と。知る。け。刀の價。は。這様  
棠色百枚を賜る。御恩。御恩。と。重宝。と。おん。慈悲。を。い。は。れ。是。は。お。れ。が。後。幸。く  
枝を生。活。せ。む。と。も。且。夕。安。く。老。と。送。り。ん。這。御。慈。善。の。餘。慶。と。も。又。家。長。久。御  
子孫。敏。昌。昌。十。秋。萬。春。萬。々。歳。と。壽。詞。を。囀。り。飲。び。を。稟。ら。酒。を。賜。り。て。前。曾。德  
と。ま。十二。分。醉。と。盡。と。退。り。朝。暮。七。の。口。示。す。下。の。話。を。德。而。季。基。朝。臣。の。腰  
刀の表。装。衣。を。改。め。思。ひ。の。隨。造。り。祖。公。と。名。つ。け。ひ。て。愛。玩。一。日。も。帶。ぬ。は。は。し。と  
る。り。小。季。基。敷。れ。ぬ。折。祖。公。の。名。刀。も。何。人。の。も。不。落。ま。け。ぬ。あ。り。と。も。知。る。ま。り。け。は。を。  
瀧田の老侯。二の功臣。杉倉堀内。の見。覚。た。れ。君。臣。閑。談。の。折。々。不。送。お。の。美。を。い。ひ。出。て  
いと。惜。と。ぬ。ひ。と。も。今。の。居。る。年。と。歷。て。名。も。不。知。る。の。稀。と。ん。先。君。の。御。送。骨。と。

とも。せん。ぬ。い。ま。り。と。も。又。世。不。出。正。本。其。菴。主。の。家。裏。不。る。せ。ぬ。一。大。奇。事。之。兩  
共。不。件。の。名。刀。の。料。む。も。又。世。不。出。正。本。其。菴。主。の。家。裏。不。る。せ。ぬ。一。大。奇。事。之。兩  
館の。お。飲。び。然。と。と。推。量。と。て。ま。れ。我。們。は。不。面。目。あり。併。宝。珠。星。額。兩。大。德。の  
賜。り。菴。主。の。功。德。不。及。び。有。る。迄。ま。で。辱。れ。妙。造。化。不。と。い。は。れ。と。一。五。十。と。解。示  
と。送。刀。の。束。歴。分。明。な。れ。大。の。飲。び。い。は。れ。七。大。士。們。も。信。の。耳。新。る。心。地。と  
貌。と。改。め。膝。を。找。め。照。文。と。共。侶。不。又。佛。壇。る。先。君。の。送。骨。を。齊。一。捧。と。け。の。當  
下。照。文。の。大。法。師。不。商。量。と。五。十。金。と。布。施。と。て。星。額。師。弟。不。薦。め。與。る。不。君  
侯。父。子。の。年。來。施。を。好。ま。ぬ。と。送。骨。送。刀。の。飲。び。を。町。寧。不。演。る。程。不。大。法  
師。由。兩。館。より。寄。り。せ。ぬ。ひ。經。卷。と。香。奠。を。命。寄。て。俱。不。星。額。長。老。不。贈。り。く。は  
や。拙。僧。一。所。無。任。あり。今。番。故。郷。へ。還。り。ゆ。れ。是。等。の。東。西。は。せん。方。々。願。ふ。長  
く。貴。院。不。留。め。先。君。並。不。先。亡。の。為。不。廻。向。を。做。め。ら。は。り。幸。ひ。さ。ん。か。と。憑。む。と  
星。額。ち。所。て。出。家。の。無。愁。を。心。と。一。鉢。の。齋。一。領。の。衣。饑。を。凍。され。足。れ。り。と。ま。へ。

此れは是等の財宝の拙僧も亦要るべしと貴捨とすけが推辭をかり。又思ふよりも  
 あれは姑く與りぬと答て件の五十金を財裏の俵不項不措て懐不楚と收め又香  
 奠と巻軸の兩箇の袱見お分ち裏とて徒弟們に通與しけり。浩処お小乘屋より二  
 四個の小厮們が最大なる麓兒二荷不腕家伙までも合納する。蔬菜の晝饌をも  
 來おければ代四郎紀二六立迎へて庵漏不擔ひ入るを。合を出て主客十一口の法師們と  
 照文と七犬士おこれを差込め次代四郎夥兵の毎及紀二六以下の伴當まで送中  
 るくさへ果一久又腕家伙を麓兒お收めて持して馳て小乘屋の小厮們を返しけり。  
 介程不這頭四下る窮民と乞丐の昨夜街衢お掲示さきて。施のよと今朝少知  
 して時分と料りも陸續と、大庵へ來ぬ者蟻の甘み附く像く幾個とら不涯を知  
 らざる豫期しるゆゑに代四郎紀二六兩隊お召れ。伴當們も米料を夥兵を錢を  
 合もする不纒お半時許の程お漏さる施しなれば。残る錢米の二兩人お合もは可不

るりけり。倍り一程一個の衰老法師の鼻の損ね足も癢さる竹の杖不携する。立平あぐ  
 來おければ紀二六みづう立迎へて招きよむ左見右見て和尚脚の不便を請ふ。その  
 邊りければも。月あるは。果報あり。施行の目今晝処まで。一兩人分残りより。定よりヨメけ  
 るも。餘さむ合せん。社装器あり。と。向ふと衰老法師は。ち。所々。南無阿彌陀佛を造  
 化は。方便をひ。然あふ。是不賜らんと。ひ。麻の切附。苦深の頭巾。合も出。啓  
 くと。奴隷が。あ。る。て。残る。米。と。一粒。も。漏さ。る。楚。と。料。入。して。錢。三。四。五。百。文。残。り。と。卒  
 と。そ。ろ。俵。合。ま。れ。衰。老。法。師。の。笑。い。不。錢。も。一。緒。不。推。勝。は。て。と。拾。駝。の。函。あ。り。去。り  
 ぶ。る。那。這。と。さ。る。と。紀。二。六。詛。り。聲。替。立。て。鈍。や。這。と。丐。坊。が。施。し。と。不。受。と。は。西。を  
 う。ら。不。疾。り。さ。む。と。叱。と。所。を。冷。笑。ひ。て。洒。家。の。左。ま。れ。右。も。あ。れ。刀。祢。連。さ。と。疾。立。去。る。  
 幾。ま。で。旅。這。里。不。在。せる。知。む。は。這。城。の。下。多。通。奇。山。免。匹。寺。の。住。職。と。德。用。和。尚。と  
 喚。做。し。り。ま。る。今。番。這。里。る。庵。王。法。燈。供。養。不。他。們。を。請。で。憐。る。施。の

大徳寺の事。徳用和尚怒り不浄堪む子院枝寺不徇示一城内一二の権臣を檀越不許  
 へ。大勢を以て推寄く。搦捕んと隊配を信れ僧俗數百の大敵。今日前不起り不  
 開を避きて。敗れ等。此柴薪の上。巢を造る。燕々不似て。愚心魚る。も。あ。の。う。と。庵  
 主。の。施。主。連。も。疾。稟。一。の。施。の。報。い。不。告。信。り。疑。ひ。あ。い。そ。の。捨。て。又。杖。不。携。り  
 して。脚。を。曳。り。か。へ。る。と。怪。し。と。目。送。る。紀。三。代。四。郎。胸。安。く。ね。ら。ち。連。立。て。之。を。其。算。不  
 注。進。し。大。照。文。七。大。士。們。不。事。信。々。と。告。知。ま。る。と。大。の。所。眉。と。頻。首。め。て。開。き。の  
 ろ。の。ぬ。り。か。約。莫。今。番。の。法。燈。供。親。に。我。獨。力。不。做。ま。り。の。う。當。城。の。先。主。は。結。城  
 氏。之。首。と。七。嘉。吉。不。陣。殺。の。列。將。士。卒。の。善。提。の。與。不。ま。る。好。事。と。非。如。那。里。へ。告。ぐ。と。も  
 歡。る。死。筋。る。不。開。と。う。不。罪。と。と。搦。捕。ら。る。の。と。理。論。は。照。文。七。大。士。們。も。共。信。不  
 點。頭。て。大。徳。の。意。見。理。り。も。か。り。不。必。信。の。錯。誤。不。そ。あ。る。ん。と。め。と。の。を。星。額。長。老  
 推。禁。め。て。さ。る。宣。ひ。そ。善。惡。邪。正。の。君。子。小。人。の。取。る。所。の。用。心。同。く。も。抑。逆。匹。寺。の

住持徳用ハ便侮ナシ世智ナ長シ是もて。さる佛學あり。ね。俗。の。視。聽。を。傾  
 る。談。義。説。法。ハ。口。才。あり。加。旗。出。家。者。相。応。一。か。ぬ。武。藝。と。好。みて。且。其。替。力。角。を。も  
 折。ぐ。べ。信。れ。む。の。辨。慶。と。も。他。が。右。不。か。ん。と。か。さ。べ。一。と。人。み。る。思。う。選。莫。小。人。の。癖。を  
 其。の。仍。狀。平。か。常。不。他。宗。を。誹。謗。して。已。不。勝。ま。る。憎。む。と。雙。言。敵。不。異。る。と。も  
 ら。れ。當。城。主。の。香。華。院。を。其。の。地。第。一。の。大。刹。を。七。八。箇。の。子。院。あり。又。十。餘。箇。所。の  
 屬。寺。あり。皆。是。同。氣。相。求。る。奸。侮。の。賣。僧。下。風。不。立。く。枝。葉。院。不。住。持。方。これ。ら。の  
 故。不。城。内。な。諸。侍。不。檀。家。勘。と。結。中。結。城。の。家。臣。長。城。枕。之。介。逸。利。堅。名。衆  
 司。經。稜。根。生。野。飛。雁。太。素。頼。ら。ん。と。喚。做。ま。三。十。の。先。代。より。の。家。宰。の。助。を。大。公。の。執。も  
 嘉。吉。の。役。不。戰。殺。の。老。黨。之。れ。結。城。の。家。再。興。の。初。也。他。們。の。職。祿。人。不。超。て。俱。不  
 兵。馬。隊。長。の。上。席。を。氣。も。相。似。す。學。俗。骨。を。胸。廣。く。取。小。人。氣。ハ。先。祖。の。忠。義。を  
 鼻。不。拭。て。傍。若。無。人。の。奉。勳。多。る。然。れ。件。の。徳。用。と。師。壇。の。交。り。淺。く。其。素。より。暇。あり

身もれ。狗兒を牽け隼鶻を放り遊獵と事とら。开も飽食共俱。那逸四寺。参詣。住持徳用と武を講。人を詣ふと樂とま。殘忍無斬心の暴雄。我れ必徳用を相資けて。這方へを打向る。あま。大敵。今更。あま。庵主。番の追薦。供養。單。里見殿の死。與るれ。敢他人を難。さうけ。情。修。好。怒。施。約の報條を城下の四巷。布れ。故。立地。人。知。これ。這。殃。危。釀。一。夫。寺。を。造。り。僧。施。去。只是。有。漏。の。縁。故。不。達。磨。の。取。ら。る。處。を。以。あ。か。る。施。約。の。富。裕。の。慈。善。を。兼。愛。の。義。我。不。庶。れ。も。又。名。聞。不。似。る。も。あ。れ。ば。時。宜。ま。り。て。用。捨。去。し。の。憚。り。あ。言。ま。る。施。約。の。一。事。へ。過。て。及。ぬ。各。位。の。千。慮。の。一。失。後。悔。あ。不。達。べ。く。誠。や。唐。山。の。常。言。も。三。十。六。計。走。る。と。り。最。上。と。ま。し。い。ふ。あ。ら。ま。ま。を。立。ま。り。あ。う。危。地。邦。不。居。る。と。り。と。利。害。と。談。し。得。失。を。説。く。教。諭。叮。寧。と。し。け。れ。大。家。敬。篤。く。开。が。中。に。大。法。師。に。沈。吟。し。た。頭。と。拾。は。感。服。し。て。長。老。の。示。教。道。理。を。稱。へ。り。一。切。衆。生。自。他。平。等。只。結。縁。を。任。ま。る。

そ。如。來。の。本。願。ま。り。の。と。救。他。施。王。と。討。つ。と。り。利。を。謀。る。是。名。聞。不。庶。け。且。て。他。領。不。育。と。締。び。ま。る。今。番。の。遠。忌。追。薦。を。領。主。に。告。げ。り。現。松。僧。行。心。を。記。甚。ま。た。と。り。後。悔。涯。ら。る。と。照。文。然。と。尉。心。難。で。俱。不。頭。と。瘡。し。大。士。の。意。見。と。尋。ね。道。節。勃。然。と。膝。を。杖。を。今。内。の。雌。々。あ。何。を。按。せ。ん。畢。竟。施。約。の。一。條。に。我。們。が。思。ひ。起。し。て。薦。め。を。做。さ。し。ま。れ。我。們。七。名。踏。踏。り。寄。り。來。る。惡。魔。鬼。と。刈。拂。ん。蚤。崎。和。殿。の。庵。主。不。俱。し。て。當。所。を。立。退。め。と。り。照。文。咄。ま。し。開。き。け。り。と。ら。咱。們。の。和。殿。達。と。招。會。の。御。使。不。擇。れ。て。偶。環。會。け。り。只。今。事。の。危。窮。不。及。び。て。縦。大。德。不。俱。ま。り。と。捨。て。那。里。へ。款。退。る。死。只。命。運。不。儘。せ。ん。と。と。惴。る。を。信。乃。に。推。林。不。也。其。の。議。定。不。理。り。ま。れ。と。案。内。知。言。敵。を。留。る。も。退。く。も。安。危。の。定。む。に。我。們。の。左。生。ま。り。右。ま。れ。大。大。德。の。先。君。の。御。遺。骨。を。衛。守。り。あ。ら。一。二。の。勇。士。相。俱。ま。り。心。許。り。思。れ。る。我。們。義。兄。弟。七。名。の。中。一。人。和。殿。と。俱。不。退。ん。推。辭。ま。り。と。諫。れ。照。文。争。ふ。と。り。



とある折星額師弟とて長老今昔の好意の千萬言の殺生かたり。  
縁場を異日亦再會の折もいん聞諍の側杖打れんとく退りぬり。と云ふ星額  
ちり所て否。拙僧とて置りて寄隊近つ立迎て和解せし事と相計んとも  
亦出家の役るれかといふ、大い點頭て又道即們ち向いていふまふわねども好きて人を  
傷りぬいそ一個も敵と殺さば日屬の作善空とて自他の功德と喪えぬの支を  
忘れぬると論せ道節ち笑ひてそ亦無理を軍令る戦兵は原是凶器なり今  
大敵と戦ん殺さで克と令んる最做くは所ゆる近曾大江親兵衛が武功を  
傳ふる富山も館山も幾十百多の党と一個も殺さ降伏する例もあれ  
左も右もせんといふを井介推禁めてその我咱們的肯ひかり。何とされ人の答ゆるもの  
ゆるるあり大江仁字の玉の應とそ性仁恕る人の他が仁慈不及のどとも又立  
優る所もあらん非如教違ふも饒とてとち陪話れ小文吾現八大角も共侶の

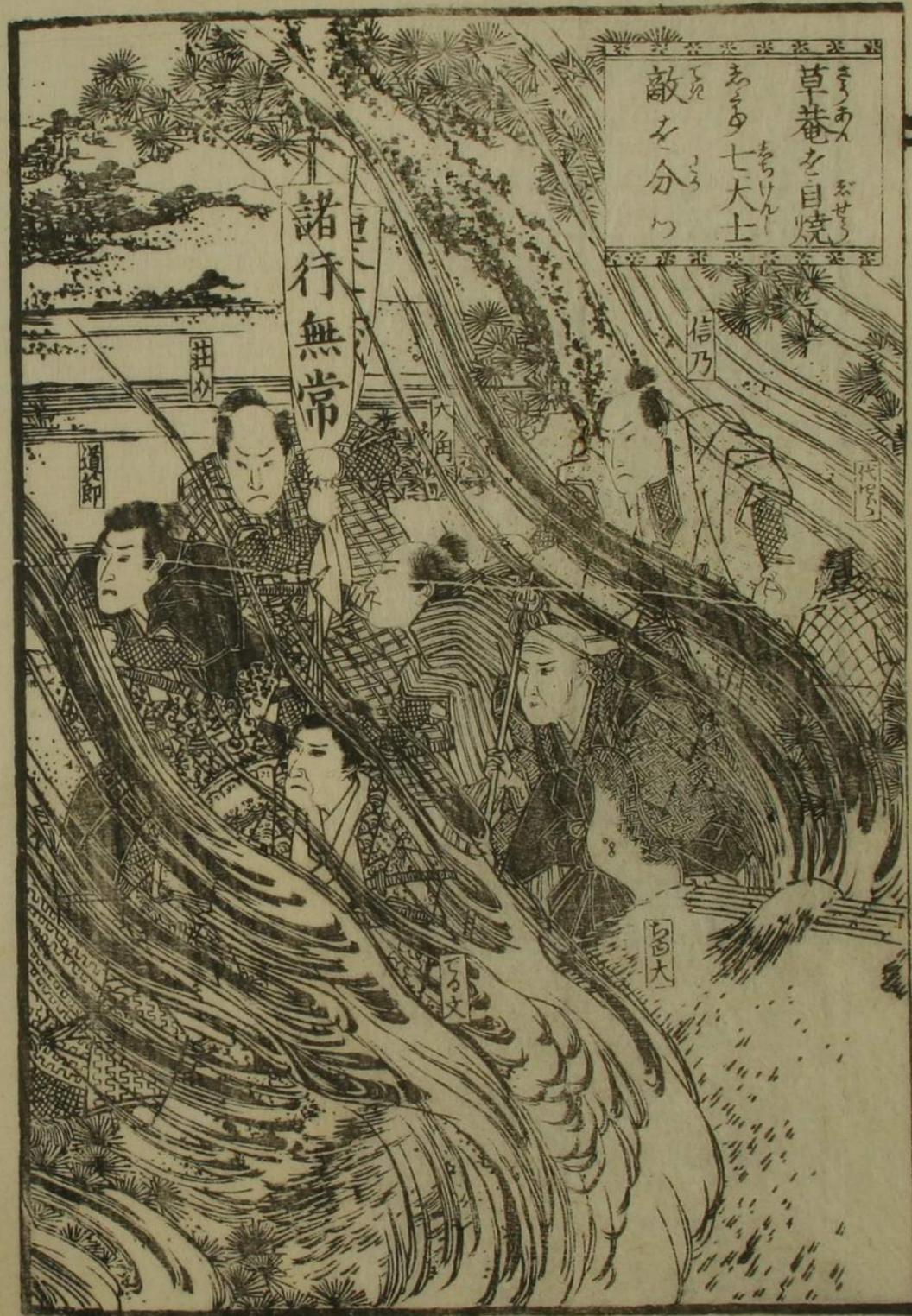
笑局入りて宜は是はわれり出家の出家の作れ。武士の武士の進退あり。聞  
戦の方へも只我門のち任してとく退りぬるか。と合る間照文代四郎及大士  
們も礼服とて脱て袂見の裏表て馳て照文の伴當渡與り。身も固めは賊  
纏纏看の現戦世の沿習とそ悠る折も武を磨く準備も脱落るるけの浩然と雨  
個の親兵は城下の方より来る来て七大夫の報る。小可們の現指揮に従ひて那這と  
徘徊も敵の虚実を張いひひ。その勢二三百の大将とが平らなる。狩場將表東  
ち騎馬もが綾蒲立と載て笠前を馳ひ弓を推り方甲乙二騎ひひ升が伴當と  
おぼし二三十名も過ぬひは他們の半纏脚祥と列卒繩桿棒と引提り。多の  
餘の猛可の驅催する。土兵もあえん。敗る武具を着るあり。介もあえん。ち交  
りて竹槍或の連枷をどと推り。かたき。既の屯とち立され推寄ん。工程あるべ。は  
御小心いへ。と言語急迫に注進を。大法師もち所てあえん。拙僧の衆議のまふ



八代傳乙屏卷下

十七

○文政癸丑臣哉



草菴を自焼  
あまの七代士  
敵を分り

諸行無常

信乃

昌大

八代傳乙屏卷下

○文政癸丑臣哉

まふ退るべし。大士達武勇を肩きて、徳を以て敵退るを待たず、引返して勝と云ふ。よき事と期し、星額師弟別を告て、友と揺揚け、錫杖と衝立を以て、左右に従ふ。照文代四郎、次は蛭崎の伴當、九名信乃の廼殿、徐の後を續けける。尔程、壯介現八小文吾の、親兵四名と相俱して、石塔波の邊より、四流の紙幡を合ひ、おろし、親兵を遣與して、東の方へ赴けり。登時、星額長老師弟俱お登立出、寄隊の近づくも、程すも、野道に即大角の俱、その隊の親兵お下知して、幕布の白張をとも、安房より遣い、敵を乱暴せしむる、後々も、瓊瑤を、その餘の佛器、漏さず、お皆皆庵中へ合入、焼草を、といひ、射て、射て、煙と颯け、嗚呼、歎矣、濁世の境、累不善の小人、多し、沙門の忠信、大功徳多、八十許、日の念佛場、脩羅戰、争の巷と、流轉、向るに生死の海、迫り、結城の郊外、嘉吉のひり、今、お照、樹間の、石、傍、浅く、お大士、才、畧、勢、ひ、既、決、然、る、武、勇、と、感、ず、親、兵、們、は、皆、慥、しく、思、ひ、け、る。

第百二十回

退職院未得名詮諫て不得。單表、這結城の城下る。通光奇山、逸足寺の任持、徳用、の朝憶り、大か、念佛供、親の、毛、の、徳、修、り、拈、醋、を、得、勝、を、猛、可、小、子、院、屬、院、を、任、僧、們、を、最、合、資、徳、々、と、言、示、し、て、敦、團、悍、く、論、考、を、り、抑、本、山、の、昔、より、結、城、氏、の、香、菴、院、ゆ、り、彼、家、累、世、の、廟、墓、基、這、里、お、在、り、余、お、似、而、非、頭、陀、大、と、ぞ、ら、し、邊、曾、這、地、を、庵、と、締、め、嘉、吉、の、役、の、戦、死、を、り、列、將、士、平、の、菩、提、と、倡、て、一、座、の、石、塔、波、を、建、立、し、出、處、不、定、の、木、驢、を、取、り、め、て、念、佛、供、養、を、お、の、ま、し、施、の、報、係、を、衝、衝、お、貼、り、く、恩、を、貧、民、を、見、們、お、施、さ、し、と、欲、す、は、只、是、鳥、嶺、の、所、お、在、り、ま、お、畢、音、我、寺、に、お、領、主、結、城、殿、の、茂、如、お、あ、る、は、結、構、を、の、肚、裏、料、り、か、こ、り、寔、や、件、の、似、而、非、頭、陀、安、房、の、里、見、の、舊、臣、を、故、主、お、代、り、て、追、薦、の、法、を、お、延、ぶ、れ、他、人、を、雜、毛、安、房、より、代、香、使、を、

達れて里見の士卒二十名來會考。風聲あり。巷談さう。施の報條の證據  
わかれ紛れる。早く領主訴く理非と糾明せざる。何をせよとの後と懲さる。武門の  
恥辱佛家の瓊忽諸不き。各這美を思ひ。と席と拍々。聖示せば本出侍  
者さうけ。祿釋坊堅削と喚做と惡僧衆議。のめを突然と杖と出で答る。現  
御鬱憤の支の趣道理至極不せえ。然る。兵書の中兵と是杜速。責ぶる。い  
あ。その計巧とと久しを佳とせ。介と今ゆ。長詮議。の議を領主訴五  
の憶む。時日移り。他們他御(走る)。あうん。常言の聞諍果ての棒。三味  
世の胡慮。まらんの。因て情地。思量。不幸。いさ。なる。本山の檀越。の。堅名。根生。野。面  
兵頭。追鳥。獵の。與ふ。今朝。未明。より。城。出て。程。遠。く。野。邊。在。り。と。告。た。は  
者。の。い。へ。弟子。隨。便。入。り。て。那。毎。ホ。ト。と。告。ぐ。快。來。會。と。請。く。時。を。得。さ。ま。あ。の。向  
下。御。商。量。い。か。と。の。詞。も。訖。ま。結。城。の。家。臣。と。い。え。る。堅。名。司。經。稜。根。生

野飛鷹太素頼。堅削が招きより。伴當列卒と相俱。と。鶴。と。駕。狗。を。牽。く。犬。獵  
糞。束。の。儘。小。て。野。邊。より。這。果。來。ま。り。れ。德。用。抄。斜。を。躬。て。堅。削。の。出。迎。と。  
申。議。の。席。に。招。き。か。經。稜。と。素。頼。の。伴。當。列。卒。們。の。内。に。住。り。て。儘。堅。削。の。  
引。を。德。用。の。對。面。に。子。院。屬。院。の。法。師。們。の。席。と。讓。り。上。坐。し。請。薦。め。り。寒。暖。と。舒。て  
恙。を。祝。し。け。登。時。住。持。德。用。の。供。の。口。誼。の。果。る。と。も。經。稜。素。頼。の。ち。向  
い。く。件。の。支。の。趣。と。辯。舌。尖。銳。く。演。知。さ。る。と。兩。士。の。所。々。推。禁。め。て。その。受。の。獨。り。祿  
釋。坊。より。告。り。れ。か。あ。る。り。因。て。伴。當。小。吟。吟。て。巷。頭。の。風。雨。と。拈。各。り。安。房。の  
里。見。の。兵。每。が。那。頭。院。の。大。吽。誘。さ。れ。て。今。番。の。法。事。と。執。行。す。る。口。既。に。紛。れ。る。  
繼。て。の。書。實。へ。も。嘉。吉。の。戰。死。の。列。將。士。卒。の。菩。提。の。與。る。法。會。あ。る。と。我。君  
侯。不。告。稟。し。て。已。前。の。免。許。を。請。奉。る。べ。く。當。寺。へ。も。悠。々。と。示。し。て。和。助。と。請。ふ。死  
諒。心。介。る。と。の。及。不。及。り。け。他。們。が。鳥。許。の。奉。動。の。饒。生。不。亦。終。も。今。ゆ。と。告

許の時を移さ。敵の遠く逃して。然る時六日の昔。蒲十日の菊を悔い。下。非  
如許。真。今。勿。地。擲。捕。も。他。們。の。非。法。の。處。見。之。疎。忽。の。咎。あ。ら。う。と。  
我。們。而。個。長。城。と。俱。ま。家。の。結。城。譜。第。の。重。臣。先。代。忠。死。の。見。孫。を。各。夥。兵。一。百  
名。と。與。け。ら。れ。俱。ま。是。兵。頭。の。上。席。を。傳。れ。兵。權。を。あ。づ。か。る。れ。も。あ。の。美。と。知。ら。ざ。り  
け。れ。伴。當。列。卒。們。の。ま。し。と。夥。兵。一。個。も。俱。ま。七。奉。ま。然。れ。ど。も。城。内。へ。還。り。く。夥  
兵。と。召。聚。さ。る。人。の。為。に。許。ら。れ。且。時。も。移。る。故。我。們。商。議。し。て。悄。地。一。個。の。伴  
當。の。城。内。へ。走。り。か。し。則。長。城。枕。之。众。の。更。の。趣。を。告。知。ら。箇。様。を。さ。ふ。の。い。せ  
ま。各。枕。之。众。と。す。あ。る。の。と。那。身。の。夥。兵。百。名。と。俱。ま。力。と。勢。を。盡。せ。し。る。儘。ま。は。程  
多。く。來。會。さ。し。又。近。邨。を。莊。客。們。の。緝。捕。め。と。御。示。し。て。猛。可。し。土。兵。を。駈。催。し  
た。り。け。れ。他。們。も。我。隊。欲。出。く。來。て。入。是。お。加。る。小。本。山。の。子。院。屬。院。の。勇。僧。と。道  
人。們。を。用。せ。し。れ。兵。馬。も。ま。と。も。二。三。百。名。の。躬。方。の。兵。越。し。安。内。知。ら。る。事。も

悄。地。那。首。推。寄。て。短。兵。急。來。拉。が。囊。裡。の。東。西。を。探。る。像。く。一。個。も  
漏。さ。ば。擲。捕。り。し。ん。惴。利。並。に。近。邨。を。莊。客。們。の。來。也。と。も。謀。し。合。は。せ。部。を  
定。め。日。屬。の。武。談。虚。し。く。器。械。令。て。覺。め。死。法。師。武。者。ア。を。備。し。し。ら。め  
准。備。し。し。そ。の。後。か。と。登。て。俱。ま。説。誇。し。德。用。堅。削。い。は。ら。う。と。這。席。上。お。在。り  
と。有。る。破。戒。を。斬。つ。の。衆。徒。兇。僧。は。勇。ま。る。は。る。且。素。賴。經。稜。の。酒。杯。を。薦  
め。る。乃。云。と。相。譚。ふ。程。長。城。枕。之。介。惴。利。の。利。は。作。る。素。賴。經。稜。お。告。ら。れ。く  
と。是。く。這。義。と。夢。知。ら。ま。よ。り。一。百。許。の。夥。兵。と。俱。ま。城。内。より。出。て。來。し。れ。素。賴  
と。經。稜。の。團。坐。の。席。お。招。容。れ。住。持。德。用。共。侶。の。大。家。い。と。く。面。談。も。惴。利。と。こ。を  
听。あ。む。現。那。賣。僧。大。少。事。の。同。僚。達。お。告。ら。れ。て。その。山。屋。略。と。夢。知。ら。れ。又。の。中。も  
及。ま。る。の。空。が。と。は。這。奴。們。が。烏。嶺。野。の。備。是。も。忍。ぶ。べ。く。も。孰。を。る。刃。心。ざ。ら。ず。咱  
們。の。緝。捕。の。准。備。も。夥。兵。を。送。り。領。て。來。れ。て。各。隊。配。甚。麼。を。ぞ。と。回。へ。ら

経稜素頼ハ俱々答々然りと云ふの爰咱們的不用意あり従ふ親兵ありされん這  
より程遠くぬ莊客們的拘示して猛可ふ土兵を駈催しりければ時を殺  
まぐ威まらべし是れ本山内外の法師武者と加まれば既四隊の雄兵あり却又  
那果の法會を連る里見の士卒二十餘名その餘の庵主と資けぬ出処不  
定の禿驢のそ其も十人不過と云ふも亦るも躬方の多勢よりと八方よりと捕  
稠多那奴們萬夫の勇ありとも捕漏をさるるごとと憚るも徳用推禁をけり  
勿論のこまがら事ハ成かたてて洩易ら非除里見の士卒們を送る捕捕  
るとも似而非頭陀、大と走り一急後々その送恨るれば今愚意を  
せん堅名主根生野主の土兵と相率く本街頭より推寄り堅名前是  
副とるて子院屬寺の衆徒道人と半分のその隊ハ相俱し宜く先鋒ハ  
找む又長城主の隊兵と領て間道より先ハ找む他們が敗れて走人折開が

去向を捕細く刺狭て敷きぬ漏さるるも但し武井の這方ハ岐路あり正  
路ハ関宿より木下風行徳小到るる開岐路ハ江戸中下谷れが又拙僧ハ當寺の  
所化と道人們を従へ長城主と共侶ハ情地ハ先へち出て那岐路ハ敵をせん  
武井諸川の這方ハ知るるる細流より下流ハ利根河ハ相通り関宿より  
西流の一箇ハ松戸新宿より別れて戸田河と做るる有徳ハ去向ハ津もよく不知  
案内の敵るれ進退不便推て知るるるの爰誰何と云ふの合意ハ像く鼻蠢あり  
まぐ鮮示せぬ大家理ありと稱えらるる中ハ長崎端利ハ件の一談をうり聴て通愛  
た長老の説法死るる躬方ハ引導のその圖ハ常と精妙ハ咱們的初度の隊ハ  
會つて伏兵あるるの勇士の本意あるるれども現二の隊ハ大事なれ咱身ハ既  
準備して親兵を送るるれも來おければ持せ火銃より敵ハ援の兵ハ來る  
倘ハ餘ハ敷きしんは是も安んず候と噪るる蒼鬚撥拍と皆憑く





緝捕の準備何事ぞや忠中もあはれ義小違小傲慢の事免れず。二思ふは  
ねと。這方と禁め那方と。君の理り切る老僧の某言口は苦けれ狂馬小鞭る像く。  
怒る経後素頼惴利も亦共侶小權威小棄去聲もいづく。余の言和僧小听ん  
慈悲忍辱の佛意でも邦次邦の法度あり。武士の武士の務あり。盛言那奴們言を設て  
我先君の菩提卒も吊奉るといふも。人の馮まぬ法會三昧迺是我君と蔑如小あはれ  
非礼の技槍許さず。鳥許ある言と罵れ然と點頭く徳用堅削俱小腕と扼り  
三檀越の言道理小稱分。當君曩小季其本們が義列の戦殘と憐とめて。墓標と建立  
あり折其義と安房へ告れせ。他が領地小建小の今番他們が這地小于館  
免許を稟請す。法廷施のと同か。乱れる世小出家でも弥陀の利劍と頭小毀りて天  
子將軍圍守領主の與小兇徒と艾拂ひ。山門の大衆南京法師先例小多く。迂遠  
る似而非談義。我小時後れる後悔あり。敵の口小是と。立ぬる。と打斷鏡のあはれ。捕

三士の勢が執鳥鳥の像く。大家立の身と起志。猶禁んと推れも。堰留難。水や座小劍  
降下僧羅維隆の。心得心多。惡僧俗が未得を障遣り。推隔て皆散動。外更小運  
まとなる。長城が殿兵莊客們及堅名と根生野の伴當列卒們送も。玄關近小側  
存整と。星列れ。主の信と相且。事終と。言示世。大家都て。るる。中。小近  
郊の莊客毎。欽と。料。緝捕古戰場る庵也。念佛供頼小施行。那大願主  
大坊及來會の士卒も漏れ。搦捕も。欲。愛小肇。多知。且。敬。是。目  
注。思。催。促。不。儘。俱。小。鈍。悔。小。勢。既  
あ。脱。も。あ。れ。己。の。從。方。の。心。一。致。せ。る。知。原。僧。意。小。叛。法。師  
武者。道。人。支。部。勇。心。去。向。の。進。退。皆。三。門。を。穿。て。經。後。素。頼。惴。利。の。各。馬。小。踏。り  
二隊。小。路。暗。蹄。と。定。期。と。約。り。小。敵。と。見。て。侮。り。思。小。那。僧。俗。と。送。も。捕。漏  
さ。と。い。は。け。る。這。段。の。長。小。格。數。言。不。定。限。あ。れ。作。者。の。自。由。成。か。ま。姑。且



第九輯中帙上七卷 第百四回より 富山の後の段館山の城攻段入不入の段濱路姫の親兵衛遠征する段本輯あり  
 第九輯下帙上五卷 第百十六回より 不忍池の段西国河原の段素藤等伏誅結城古戦場の段本輯あり  
 第九輯下帙中五卷 第百十八回より 是より下の作者の稿本いまだ成りざる故その趣を注ぐものあり中下二帙の  
 第九輯下帙下五卷 第百二十回より 卷の數も回数も只大かき本なるものあり過不及のあり明年改を録志し  
 右八大巻全部七十餘巻一百四十餘回明年刊列満尾仕ひり並製本半紙揃りの外も賜願の君  
 子の御誂儘ももろの鷹皮紙揃り仕り大抵一輯一帙分を合巻一冊に製本仕ひり九輯全部  
 十二冊に可成り充ひり遠国御進物或は御旅物の折或は湯治場など御携り道中支張り  
 至極の御便利多しといふ並製本も第一輯より六七輯まで刺画の落墨板紛失致し標幟並  
 帙袋の模様板の磨滅及びひり先般悉彫り改め製本執りも新板高貴出りの折の如く毫も疎  
 略なく折々揃廻し毎輯品定めし仕入置け向本房並は向寄の書肆少くも少くも依りて求め  
 たり必す世に物の本まともな来り大部類多しは春自秋夜の御慰もよきものあり板書林文堂敬白

近世説美少年録第四集

開卷驚奇俠客傳第五集

莊蝶翁再遊外紀第一集

著作堂一夕話 大本五卷

第一集より第三輯三十回まで既に刊列しありぬ  
 第四集三十回より四十回まで五巻續出せらるるべし  
 第四十一回より五十回に至る  
 四集まで既に刊布し訖ぬ 本集五巻 近刻  
 胡蝶物語前後二編今も世に流行す 五巻 近刻  
 因曲草下翁とて又の書刊列せむ欲す  
 李卓吾と山中一夕話の書ありといふもあを戲墨ふ  
 中む翁の隨筆なるが初学のぬ積益すべし 近刻

大阪	河内屋喜兵衛	東京	須原屋茂兵衛
同	伊丹屋善兵衛	同	山城屋佐兵衛
同	敦賀屋九兵衛	同	小林新兵衛
同	秋田屋太右門	同	丸屋善七
同	河内屋茂兵衛	同	和泉屋市兵衛
同	河内屋和助	同	須原屋伊八
同	秋田屋市兵衛	同	出雲寺萬治郎
西京	出雲寺文次郎	同	梶屋喜兵衛
同	村上勘兵衛	同	近江屋半七
同	勝村治右衛門	同	長門屋龜七
同	杉本甚助	同	三家村佐平

名山閣 東京芝大神宮前書舗 和泉屋吉兵衛發售

